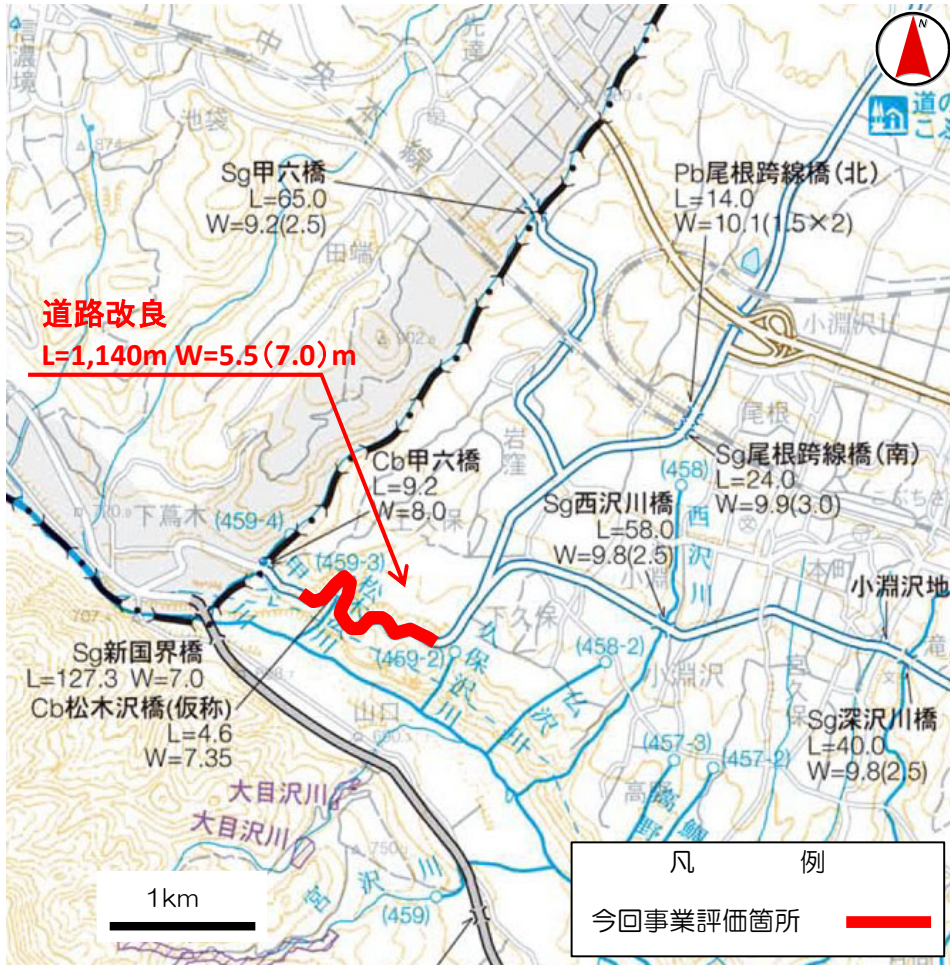


令和7年度 公共事業再評価調書

(区分) 国補 ・ 県単

1. 事業説明シート

事業名		道路事業〔緊急道路整備改築事業(国補)〕		事業箇所	北杜市小淵沢町岩窪	地区名	(主)北杜富士見線 (松木坂工区)	事業主体	山梨県													
計画期間	当初計画	現計画	変更計画	④特記事項(関連事業概要等) なし																		
	H30~R3	H30~R7	H30~R15																			
総事業費	95 百万円	395 百万円	990 百万円	⑤これまでの評価状況 なし																		
(1) 事業の概要																						
①事業目的及び効果				(2) 事業位置図等																		
主要地方道北杜富士見線は、北杜市高根町清里と長野県諏訪郡富士見町を結ぶ全長約26kmの主要地方道で、ハケ岳南麓の観光道路や中央自動車道小淵沢ICへのアクセスとして機能する重要な路線である。また、大雪などの異常気象時に中央自動車道が通行止めとなる際には、小淵沢ICが規制区間の起終点となることが多く、本事業区間が国道20号へのアクセス道路となる。 しかしながら、当該区間は、カーブが連続し勾配も急なため走行性が悪い上に、幅員も狭いことから大型車のすれ違いが困難な箇所が存在する。このことから、走行性や安全性の確保を目的としてH30年度より一部区間において道路改良事業を実施してきており、残る区間の道路改良事業を引き続き計画するものである。 □主要目標 ○災害に強い道路の確保 ・危険度 : 耐震未補強 ・損傷度等 : 橋梁対策区分C ・緊急輸送道路の指定 : あり(第二次緊急輸送道路) ・自動車交通量: 1,607台/12h(H27センサス) < 3,340/12h以上※ ※評価基準値 □副次目標 ○生活圏中心都市・拠点施設へのアクセス向上 □副次効果 ○アクセス機能の維持(1箇所の通行止めで迂回に2倍以上の時間が必要)																						
②事業概要																						
道路改良 L=1,140m W=5.5 (7.0) m																						
③全体計画				凡 例 今回事業評価箇所																		
<table><tr><td></td><td>令和6年度まで</td><td>令和7年度 (評価実施年度)</td><td>令和8年度以降</td></tr><tr><td rowspan="2">現計画</td><td>工事内容</td><td>測量設計 用地補償 道路改良工事</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>事業費</td><td>500 百万円</td><td>0 百万円</td></tr><tr><td rowspan="2">変更計画</td><td>工事内容</td><td>測量設計 用地補償 道路改良工事</td><td>道路改良工事 舗装工事 道路台帳整備</td></tr><tr><td>事業費</td><td>362 百万円</td><td>14 百万円</td><td>614 百万円</td></tr></table>										令和6年度まで	令和7年度 (評価実施年度)	令和8年度以降	現計画	工事内容	測量設計 用地補償 道路改良工事		事業費	500 百万円	0 百万円	変更計画	工事内容	測量設計 用地補償 道路改良工事
	令和6年度まで	令和7年度 (評価実施年度)	令和8年度以降																			
現計画	工事内容	測量設計 用地補償 道路改良工事																				
	事業費	500 百万円		0 百万円																		
変更計画	工事内容	測量設計 用地補償 道路改良工事	道路改良工事 舗装工事 道路台帳整備																			
	事業費	362 百万円	14 百万円	614 百万円																		

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

2.評価シート（1）																																																																	
（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化 （今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）		（2）評価時点の費用対効果分析																																																															
①地域・住民の意向状況 変化なし ②産業・経済情勢 労務費・建設資材費の上昇 ③国等の方針 変化なし ④上位計画・関連事業計画等 「山梨県総合計画」（令和5年10月改訂） 「山梨県強靱化計画」（令和6年3月改定） 「山梨県社会資本整備重点計画（第四次）」（令和4年9月改定） ⑤自然環境条件等 変化なし ⑥その他 変化なし		<table><tr><th colspan="2">項 目</th><th>着手時点(*1)</th><th>着手時点(*2)</th><th>変更計画時点</th></tr><tr><td colspan="2">総事業費</td><td></td><td>300百万円</td><td>990 百万円</td></tr><tr><td colspan="2">工 期</td><td></td><td>R2～R6</td><td>H30～R15</td></tr><tr><td rowspan="9">経 済 効 率 性</td><td>評価基準年</td><td></td><td>R1</td><td>R7</td></tr><tr><td rowspan="4">費用</td><td></td><td>281百万円</td><td>972 百万円</td></tr><tr><td>建設費</td><td></td><td>241百万円</td><td>883 百万円</td></tr><tr><td>維持管理費</td><td></td><td>40百万円</td><td>89 百万円</td></tr><tr><td>その他</td><td>不算出</td><td></td><td>0 百万円</td></tr><tr><td rowspan="5">便益</td><td></td><td>647百万円</td><td>2,225 百万円</td></tr><tr><td>走行時間短縮</td><td></td><td>616百万円</td><td>1,231 百万円</td></tr><tr><td>走行経費減少</td><td></td><td>21百万円</td><td>867 百万円</td></tr><tr><td>交通事故減少</td><td></td><td>10百万円</td><td>41 百万円</td></tr><tr><td>その他※</td><td></td><td></td><td>86 百万円</td></tr><tr><td colspan="2">B / C</td><td></td><td>2.3</td><td>2.3</td></tr></table> 費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上 ※その他は、観光客増加便益 着手時点1 小規模な事業（事業費1億円未満）のため、不算出			項 目		着手時点(*1)	着手時点(*2)	変更計画時点	総事業費			300百万円	990 百万円	工 期			R2～R6	H30～R15	経 済 効 率 性	評価基準年		R1	R7	費用		281百万円	972 百万円	建設費		241百万円	883 百万円	維持管理費		40百万円	89 百万円	その他	不算出		0 百万円	便益		647百万円	2,225 百万円	走行時間短縮		616百万円	1,231 百万円	走行経費減少		21百万円	867 百万円	交通事故減少		10百万円	41 百万円	その他※			86 百万円	B / C			2.3	2.3
項 目		着手時点(*1)	着手時点(*2)	変更計画時点																																																													
総事業費			300百万円	990 百万円																																																													
工 期			R2～R6	H30～R15																																																													
経 済 効 率 性	評価基準年		R1	R7																																																													
	費用		281百万円	972 百万円																																																													
		建設費		241百万円	883 百万円																																																												
		維持管理費		40百万円	89 百万円																																																												
		その他	不算出		0 百万円																																																												
	便益		647百万円	2,225 百万円																																																													
		走行時間短縮		616百万円	1,231 百万円																																																												
		走行経費減少		21百万円	867 百万円																																																												
		交通事故減少		10百万円	41 百万円																																																												
その他※				86 百万円																																																													
B / C			2.3	2.3																																																													
		（3）これまでの計画変更等の概要																																																															
		- 事前評価（事業費1億円未満）で事業化（平成30年度） 事業延長 L=700m 総事業費 0.95億円、計画期間 平成30年度～令和3年度 - 事前評価（事業費1億円以上）で事業化（令和2年度） 事業延長 L=440m 総事業費 3億円、計画期間 令和2年度～令和6年度 - 事業評価区間を合算（令和3年度） 渡河部の構造に係る関係機関協議に時間を要したため、 計画期間を1年延長 事業延長 L=1,140m 計画期間 平成30年度～令和7年度																																																															

評価シート（２）

（４）事業進捗状況及び見込み ①進捗率 別表のとおり。 R7年度進捗率（現計画）100%→（実績）75.2%→（変更計画）37.9% ②進捗率実績が計画と相違している理由 地質調査結果や関係機関協議により、一級河川松木沢川の渡河部の道路計画を再検討する必要が生じたため。 ③総事業費の変更内容 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <th style="width: 15%;">変更工種等</th> <th style="width: 35%;">事業費増減</th> <th style="width: 50%;">変更理由</th> </tr> <tr> <td>渡河部の構造変更</td> <td>340 百万円 増</td> <td>渡河部の計画変更より、法面工や渓流保全工を実施することとしたため</td> </tr> <tr> <td>路側擁壁の変更</td> <td>150 百万円 増</td> <td>地質調査の結果から路側構造物を大型ブロック積擁壁に変更したため</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>490 百万円 増</td> <td></td> </tr> </table> ④事業期間の変更理由及び進捗予定 渡河部の構造決定に日数を要したことにより、工事進捗が遅れているため、工期を8年間延長する。未取得の用地については、地権者の事業への理解は得られているため早期の取得に努め、令和15年度の完成を予定している。 ⑤今後の事業執行における留意点 未契約用地の早期取得に努め、適切な工程管理のもと計画の通り事業を進捗させる。	変更工種等	事業費増減	変更理由	渡河部の構造変更	340 百万円 増	渡河部の計画変更より、法面工や渓流保全工を実施することとしたため	路側擁壁の変更	150 百万円 増	地質調査の結果から路側構造物を大型ブロック積擁壁に変更したため	合 計	490 百万円 増		（５）環境負荷等への配慮 なし （６）コスト縮減の可能性 なし （７）代替案立案の可能性 なし （８）所管部の今後の方針 継続・<u>見直し継続</u> その他（ ） （理由） 本事業区間は、中央道小淵沢ICと国道20号を結ぶ唯一の道路であるが、縦断勾配が急で、カーブが連続するなどの課題があり、早急に改善する必要がある。 未契約地権者からの事業への理解は得られているため、事業費と工期を見直し、令和15年度の完成を予定している。
変更工種等	事業費増減	変更理由											
渡河部の構造変更	340 百万円 増	渡河部の計画変更より、法面工や渓流保全工を実施することとしたため											
路側擁壁の変更	150 百万円 増	地質調査の結果から路側構造物を大型ブロック積擁壁に変更したため											
合 計	490 百万円 増												

○別表-進捗率（事業費ベース）

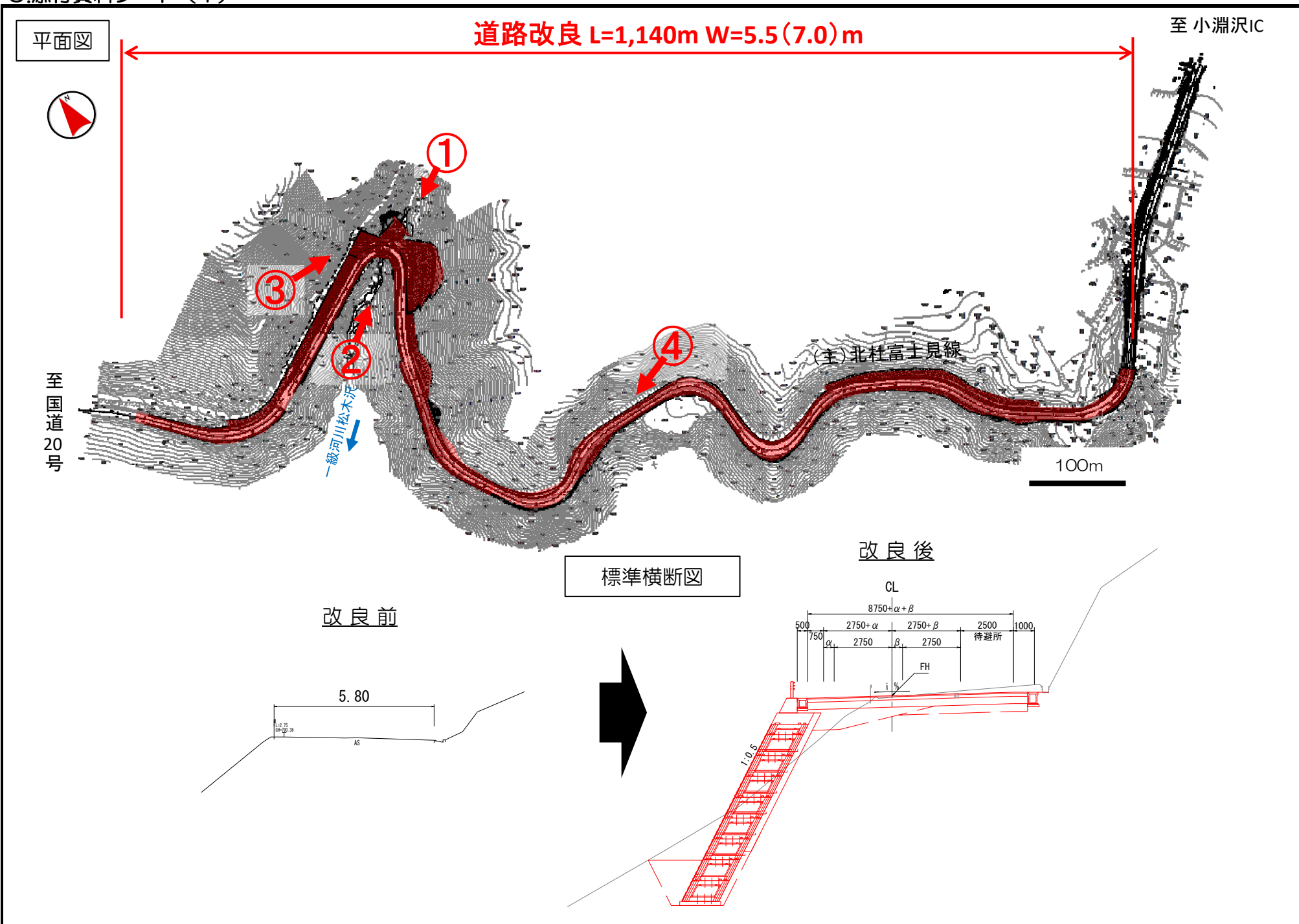
算出方法：【上段】現計画の計画事業費／総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費／総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費／総事業費×100 単位：％

	年度	*H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	*R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
現	計画	4.0	20.0	46.0	52.0	74.0	94.0	98.0	100								
	実績	15.8	20.2	20.4	41.2	42.8	46.2	72.4	75.2								
	変更計画								37.9	47.0	56.1	65.2	74.3	83.4	91.5	98.5	100

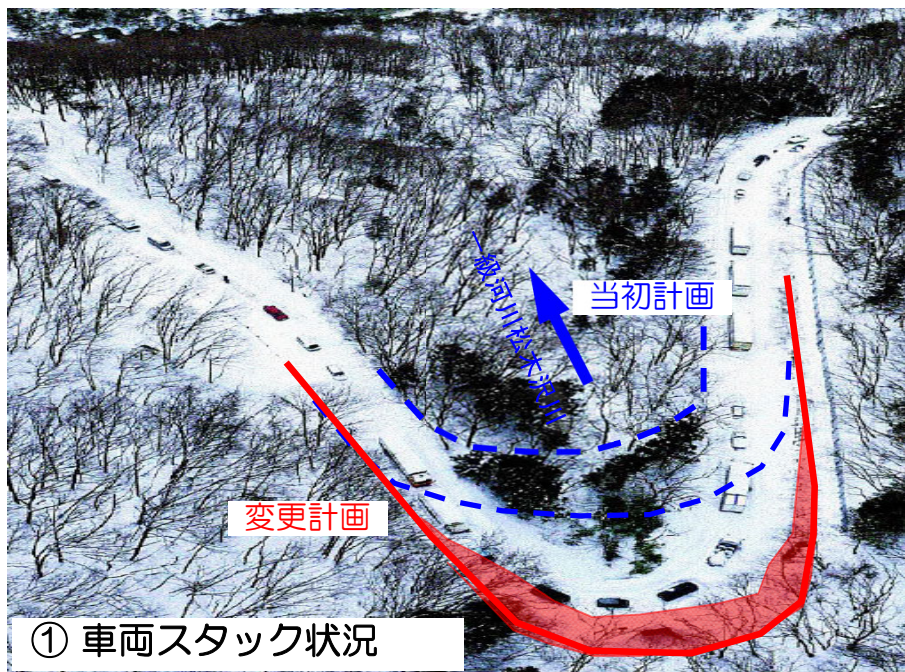
*事業着手年度又は評価年度

*R7年度の実績は見込み

3.添付資料シート（1）



3. 添付資料シート（2）

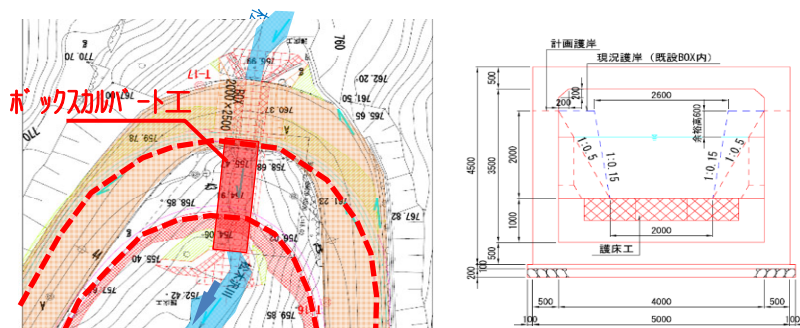


3.添付資料シート（3）

変更内容①

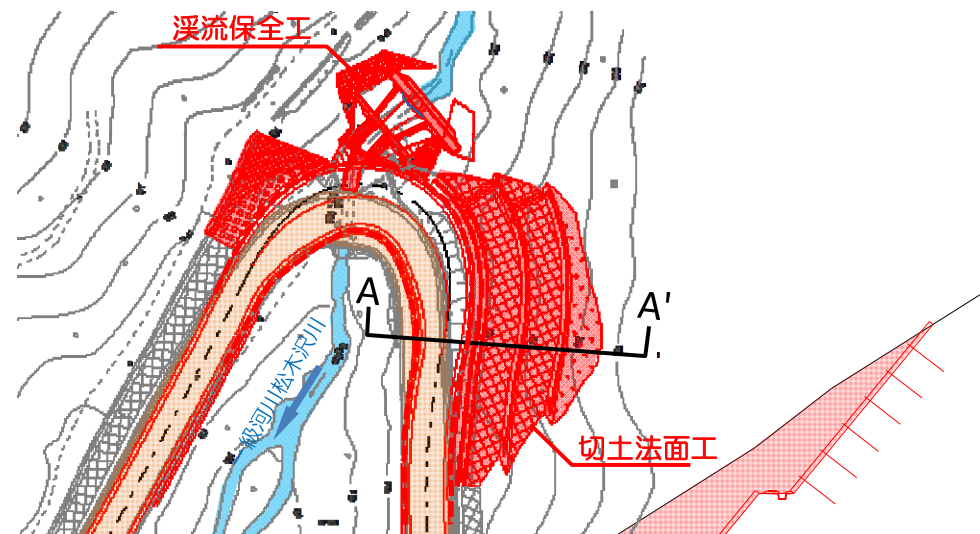
渡河部の構造について、縦断勾配が改善し、走行性が向上する上流側を拡幅することとしたため、法面工や溪流保全工が新たに必要となり、工事費が増加した。

当初計画



改良後の縦断勾配が現況より急勾配となり、走行性が低下

変更計画



A-A'断面

現道

縦断勾配が改善し、曲線部の拡幅量も確保できるため、走行性が向上

数量変更

法切工 V=4,200m³

床固工 V=128m³

3.添付資料シート（4）

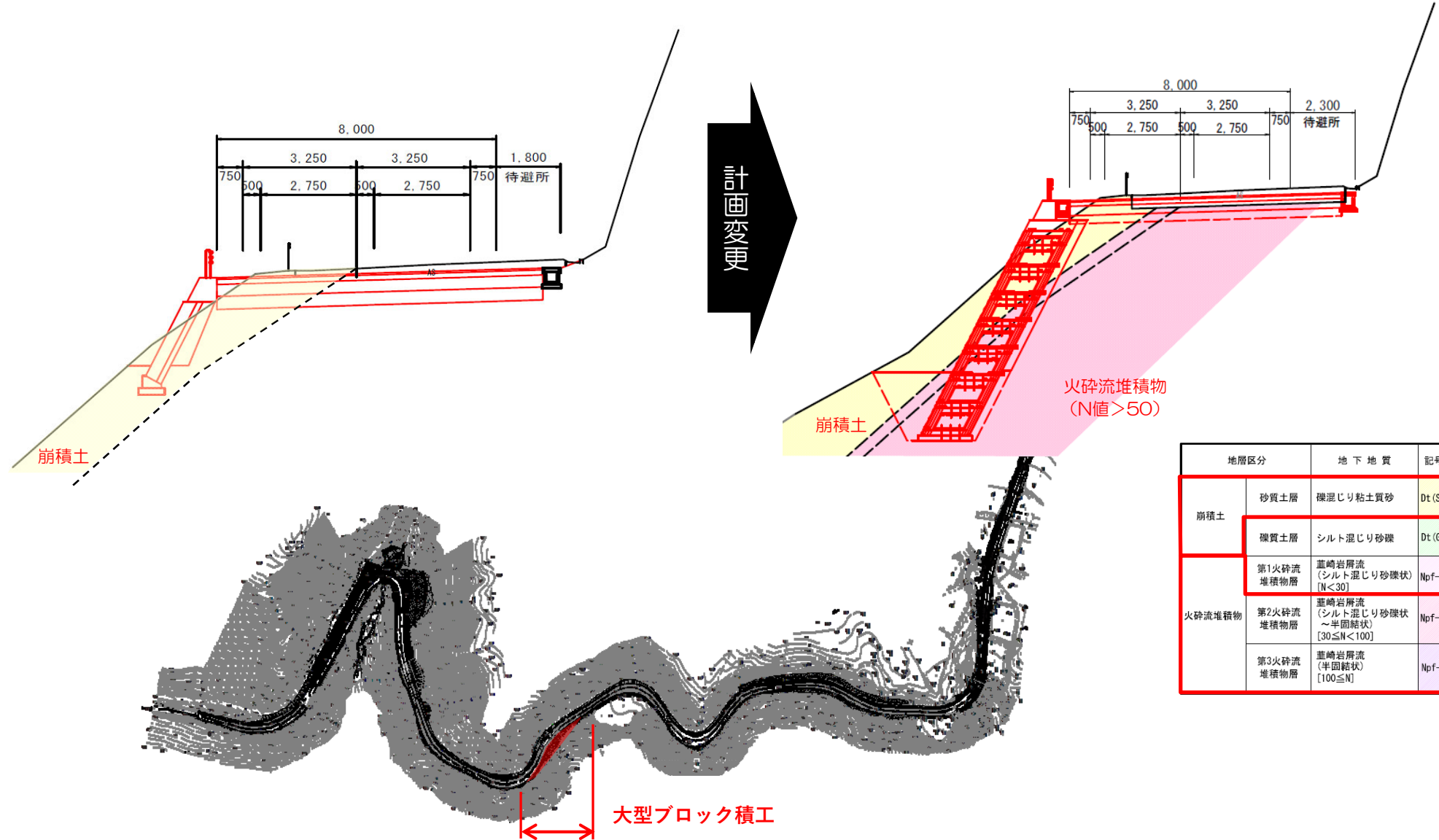
変更内容

地質調査の結果、当初想定していた支持地盤の強度不足が判明したため、路側構造物の構造を大型ブロック積に変更したことによる工事費の増

当初計画

変更計画

計画変更



地層区分		地下地質	記号
崩積土	砂質土層	礫混じり粘土質砂	Dt (S)
	礫質土層	シルト混じり砂礫	Dt (G)
火砕流堆積物	第1火砕流堆積物層	壱崎岩屑流 (シルト混じり砂礫状) [N<30]	Npf-1
	第2火砕流堆積物層	壱崎岩屑流 (シルト混じり砂礫状 ~半固結状) [30≤N<100]	Npf-2
	第3火砕流堆積物層	壱崎岩屑流 (半固結状) [100≤N]	Npf-3

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H30	78,783	道路詳細設計、地質調査、用地測量、道路改良工事	8.0%
R1	21,843	橋梁予備設計、道路詳細設計、用地測量	10.2%
R2	1,146	用地補償	10.3%
R3	103,732	用地補償、橋梁施工計画検討、道路改良工事	20.8%
R4	8,122	道路詳細設計	21.6%
R5	16,523	道路詳細設計	23.2%
R6	131,479	溪流保全工設計、用地測量、道路改良工事	36.5%
R7	14,000	用地補償	37.9%
R8	90,000	道路改良工事	47.0%
R9	90,000	道路改良工事	56.1%
R10	90,000	道路改良工事	65.2%
R11	90,000	道路改良工事	74.3%
R12	90,000	道路改良工事	83.4%
R13	80,000	道路改良工事	91.5%
R14	70,000	舗装工事	98.5%
R15	14,372	道路台帳整備	100%
合計	990,000		